

精神専門

問 題

◎ 指示があるまで開かないでください。

一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟
平成29年度社会福祉士・精神保健福祉士全国統一模擬試験

(専門科目)

注 意 事 項

1 試験時間等

専門科目の試験問題数は80問で、解答時間は2時間20分です。

2 受験番号等の記入方法

はじめに、解答用紙に学校名、氏名を記入してください。次に、右側の一番上の欄に受験番号を記入し、その下のマークシートの欄には、受験番号の英字及び数字に対応する○を、次表の例にならって塗りつぶしてください。

(例) 受験番号 1 6 A 0 1 2 - 3 4 5 6 H の場合

平成29年度
社会福祉士
精神保健福祉士
全国统一模擬試験
(精神専門) 解答用紙

学校名	ソーシャルワーク大学
氏名	ソ 教 連 子

受 験 番 号	1	6	A	0	1	2	-	3	4	5	6	H		
	①	①	●	●	①	①		①	①	①	①	①	①	●
	●	①	B	①	●	①		①	①	①	①	①	①	●
	②	②	C	②	②	●		②	②	②	②	②	②	●
	③	③	D	③	③	③		●	③	③	③	③	③	●
	④	④	E	④	④	④		④	●	④	④	④	④	●
	⑤	⑤	F	⑤	⑤	⑤		⑤	⑤	●	⑤	⑤	⑤	●
	⑥	●	H	⑥	⑥	⑥		⑥	⑥	⑥	⑥	●	⑥	●
	⑦	⑦	P	⑦	⑦	⑦		⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	●
	⑧	⑧	Q	⑧	⑧	⑧		⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	●
⑨	⑨	W	⑨	⑨	⑨		⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	●	

(注意) この場合、0も必ず塗りつぶしてください。

3 解答方法

(1) 出題形式は五肢択一を基本とする多肢選択形式となっています。各問題には1から5まで5つの答えがありますので、そのうち、問題に対応した答えを〔例1〕では1つ、〔例2〕では2つを選び、解答用紙に解答してください。

〔例1〕 問題 201 次のうち、県庁所在地として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 函館市
- 2 郡山市
- 3 横浜市
- 4 米子市
- 5 北九州市

正答は「3」ですので、解答用紙の

問題 201 ① ② ③ ④ ⑤ のうち、③ を塗りつぶして、

問題 201 ① ② ● ④ ⑤ としてください。

〔例2〕 問題 202 次のうち、首都として、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 シドニー
- 2 ブエノスアイレス
- 3 上海
- 4 ニューヨーク
- 5 パリ

正答は「2と5」ですので、解答用紙の


問題 202 ① ② ③ ④ ⑤ のうち、② ⑤ を塗りつぶして、

問題 202 ① ● ③ ④ ● としてください。

- (2) 採点は、光学式読取装置によって行います。解答は、鉛筆を使用し、○の外にはみださないように濃く塗りつぶしてください。なお、シャープペンシルは問題ありませんが、ボールペンは使用できません。

良い解答の例……………●

悪い解答の例…………… (解答したことになりません)

- (3) 一度解答したところを訂正する場合は、消しゴムで消し残りのないように完全に消してください。鉛筆の跡が残ったり、 のような消し方などをした場合は、訂正したことになりませんので注意してください。
- (4) 〔例1〕の問題に2つ以上解答した場合は、誤りになります。〔例2〕の問題に1つ又は3つ以上解答した場合は、誤りになります。
- (5) 解答用紙は、折り曲げたり、チェックやメモなどで汚したりしないように特に注意してください。

4 その他の注意事項

- (1) 印刷不良や落丁があった場合は、手を挙げて試験監督員に連絡してください。
- (2) 問題の内容についての質問には、一切お答えできません。
- (3) 試験終了後、この試験問題はお持ち帰りください。
- (4) この試験問題は、複製、譲渡、電子記録媒体への記録・転載等を固く禁じます。

精神疾患とその治療

問題 84 精神医学，精神医療の歴史に関する記述のうち，正しいものを2つ選びなさい。

- 1 ピネル (Pinel, P.) は，フランスにおいて精神障害者を解放し，人道主義に基づく治療を実施した。
- 2 ビアーズ (Beers, C. W.) は，イギリスにおいてコミュニティケアの礎を築いた。
- 3 バザーリア (Basaglia, F.) は，1960年代，イタリアにおいて脱施設化運動を起こした。
- 4 クレペリン (Kreapelin, E.) は，臨床精神病理の立場から，統合失調症の一級症状を述べた。
- 5 ロールシャッハ (Rorschach, H.) は，画像診断法を確立し，精神科診断学の発展に貢献した。

問題 85 脳や神経に関する次の記述のうち，正しいものを1つ選びなさい。

- 1 頭頂葉は感情・意欲・言語などの機能をつかさどる。
- 2 ウェルニッケ中枢は感覚性の言語中枢であり，同部の損傷によって言語の理解が困難になる。
- 3 後頭葉は平衡感覚をつかさどり，同部の損傷によって回転性めまい・失調性歩行・企図振戦などが現れる。
- 4 間脳・中脳・橋・延髄をあわせて脳幹部という。
- 5 小脳には視覚中枢がある。

問題 86 ICD-10に基づく精神疾患の組合せのうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 小児自閉症——小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害
- 2 非器質性睡眠・覚醒スケジュール障害——生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
- 3 統合失調症——症状性を含む器質性精神障害
- 4 摂食障害——成人のパーソナリティおよび行動の障害
- 5 チック障害——神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害

問題 87 アルコール依存症に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 アルコール依存症では、飲酒量が著しく増加するが、必要に応じて制御可能な場合が多い。
- 2 アルコール離脱状態では、昆虫・小動物・小人などの幻視を主とする異常体験や精神運動興奮などがみられる。
- 3 HALTはアルコール依存症からの回復に重要な生活習慣を表す語である。
- 4 アルコール依存症の診断では客観性をもたせるためAUDITを実施し、その点数で確定診断を行う。
- 5 長年の多量飲酒によるドーパミンの欠乏から、筋固縮・振戦・無動・姿勢反射障害といった症状が出現するウェルニッケ脳症を呈することがある。

問題 88 次のうち、主にノンレム睡眠期にみられる所見として、正しいものを2つ
選びなさい。

- 1 活発な眼球運動
- 2 活発な寝返り
- 3 金縛り
- 4 脳波の θ 波 (4 ~ 7 Hz)
- 5 睡眠時驚愕症

問題 89 次の状態像と病名・尺度の組合せのうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 幻覚妄想状態—————心的外傷後ストレス障害 (PTSD)
- 2 躁病相の評価—————グラスゴー・コーマ・スケール (GCS)
- 3 微小妄想—————気分障害
- 4 睡眠障害—————双極性障害
- 5 ボディイメージの障害——自己愛性パーソナリティ障害

問題 90 修正型電気けいれん療法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 施行時に筋弛緩薬を用いる必要はない。
- 2 妊娠初期の患者には用いてはならない。
- 3 治療効果がすぐには現れにくいため定期的に行う必要がある。
- 4 繰り返し行うと記憶障害が起こりやすいという問題がある。
- 5 繰り返し行うと脊椎圧迫骨折が起こりやすいという問題がある。

問題 91 次のうち、薬物の投与によって減少する物質として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 定型抗精神病薬によるプロラクチン
- 2 非定型抗精神病薬による顆粒球
- 3 抗うつ薬によるセロトニン
- 4 抗酒薬によるアセトアルデヒド
- 5 抗認知症薬によるアセチルコリン

問題 92 精神疾患の治療に関する記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 力動精神療法（精神分析的な精神療法）は、主にうつ病の治療に用いられる。
- 2 認知行動療法は、強迫性障害の治療における第一選択として推奨されている。
- 3 選択的セロトニン再取り込み阻害薬（SSRI）はうつ病の治療に特異的に用いられる。
- 4 社会生活技能訓練（SST）は、統合失調症の治療において薬物療法の効果が得られないときに適用となる。
- 5 集団療法は、精神作用物質による依存症の治療の一つとして有効である。

問題 93 精神科治療における人権擁護に関する記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 「精神保健福祉法」では、例外的な場合を除いて懲罰を目的とした身体的な拘束を行ってはならないとされている。
- 2 患者の隔離は、12時間を超えない範囲で、精神保健指定医以外の医師の判断によって可能である。
- 3 医療保護入院とは、精神障害者の心身を医療的に保護する目的で定められた入院形態であり、入院にあたって精神保健指定医の診察は必要としない。
- 4 措置入院とは、都道府県知事による強制入院であり、入院にあたっては1人以上の医師の診察が必要である。
- 5 緊急措置入院の場合の入院期間は1週間以内である。

(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

精神保健の課題と支援

問題 94 エリクソン (Erikson, E. H.) の心理・社会的発達理論に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 乳児期（0歳～1歳）は、養育者との相互関係のなかで自主性を獲得する時期である。
- 2 幼児期初期（1歳～3歳）は、養育者とのコミュニケーションを通じて、基本的信頼感を獲得する時期である。
- 3 幼児期後期（3歳～6歳）は、自発性（もしくは積極性ともいう）を獲得する時期であり、他者と友好的な関係を築いたり、大人のすることを真似したりするようになる。
- 4 学童期（6歳～12歳）は、自律性を獲得する時期であり、しつけなどの外部からの力によって、自身の衝動を統制する内的な枠組みがつくられる。
- 5 青年期（18歳～30歳頃）は、「男性らしさ」あるいは「女性らしさ」といった社会的な性役割を強く意識する時期である。

問題 95 「平成28年中の自殺の状況」（厚生労働省・警察庁）において、正しいものを1つ選びなさい

- 1 自殺者総数は、前年より増加している。
- 2 女性の自殺死亡率は、前年より増加している。
- 3 高齢者の自殺死亡率は、前年より増加している。
- 4 自殺の動機は、経済・生活問題が最も多い。
- 5 未成年の自殺の動機は、学校問題が最も多い。

問題 96 要保護児童対策地域協議会に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 2004年（平成16年）の児童福祉法の改正によって、地方公共団体に要保護児童対策地域協議会が必置されることが明記された。
- 2 要保護児童対策地域協議会の対象児童は、虐待を受けた子どもに限られる。
- 3 要保護児童対策地域協議会の構成員は、「関係機関、関係団体及び児童の福祉に関連する職務に従事する者その他の関係者」であり、NPOやボランティア、民間団体などは含まれない。
- 4 要保護児童対策地域協議会の構成員には、職務に関して知り得た秘密を漏らしてはならない義務があり、この義務に違反した場合には罰則がある。
- 5 要保護児童対策地域協議会の構成員の代表者による会議、いわゆる「代表者会議」は毎週開催される。

問題 97 過労死等防止対策推進法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 「過労死等」の定義を「業務における心理的負荷を原因とする自殺による死亡または精神障害」としている。
- 2 法の目的は、過労死等の防止のための対策を推進させ、過労死等がなく心身ともに健康で働き続けることができることであり、仕事と生活の調和（ワークライフバランス）については言及されていない。
- 3 国は、過労死等の防止のための対策を効果的に推進するように努めなければならない。
- 4 過労死等の防止のための対策は、調査研究等、啓発、相談体制の整備等、民間団体の活動に対する支援の4項目が規定されている。
- 5 内閣府に過労死等防止対策推進協議会を設定することが規定され、協議会の委員は内閣総理大臣が任命する。

問題 98 薬物乱用に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 精神神経作用物質（薬物）は、体性神経系を抑制したり興奮させたりする作用がある。
- 2 危険ドラッグにおける指定薬物を迅速に指定するにあたり、緊急を要する等の場合には、薬事・食品衛生審議会を開催するなどの手続きを経ないで指定を行うことができる。
- 3 2014年（平成26年）の薬事法（現・医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律）の改正に伴い、危険ドラッグなどの指定薬物を授与目的で貯蔵または陳列することも禁止された。
- 4 2015年（平成27年）中の少年及び20歳台の大麻事犯による検挙人員は、前年に比べ減少している。
- 5 保護観察所において、覚せい剤事犯保護観察対象者等に対する「薬物再乱用防止プログラム」では、簡易薬物検出検査を実施しない。

問題 99 いじめ防止対策推進法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 いじめ防止対策推進法は、いじめ防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進するため、国および地方公共団体等が基本理念を定め、学校の責務を明らかにするものである。
- 2 いじめの定義は、身体的・心理的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているものをいうと規定されている。
- 3 学校における「いじめ防止基本方針」の策定は努力義務とした。
- 4 学校は、いじめ防止等に関する措置を実効的に行うため、複数の教職員、心理、福祉等の専門家その他の関係者により構成される組織を任意で置くことができる。
- 5 いじめが犯罪行為として取り扱われるべきものであると認められた場合は、所轄警察署と連携することが定められている。

(注) 「いじめ防止基本方針」とは、「いじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針」のことである。

問題 100 家族間で生じる虐待や暴力に関する記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 児童相談所での児童虐待相談対応件数は減少している。
- 2 児童虐待のうち心理的虐待の割合が増加している。
- 3 児童への虐待者は、実父以外の父が最も多い。
- 4 配偶者暴力相談支援センターにおける相談件数は増加している。
- 5 配偶者暴力被害の相談場面では、被害者が援助を希望しなければ積極的な情報提供は行わない。

問題 101 国際連合の精神保健活動に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 「ミレニアム開発目標」は、世界の80%の国々が、少なくとも2つの機能している国の他部門によるメンタルヘルスの促進と予防のプログラムを2020年までにもつことである。
- 2 「ミレニアム開発目標」は、2015年までに達成すべき開発分野における8つの目標について、2015年までに一定の成果をあげ、「ミレニアム開発目標報告2015」にまとめた。
- 3 「持続可能な開発目標」には、発展途上国におけるメンタルヘルスの目標が設定されている。
- 4 「持続可能な開発のための2030アジェンダ」には、「メンタルヘルスアクションプラン2013-2020」の発展途上国における目標を報告することになっている。
- 5 「持続可能な開発目標」には、ジェンダーに関する目標として「ジェンダー平等推進と女性の地位向上」が設定されている。

問題 102 「子供の貧困に関する指標の見直しにあたっての方向性について」（内閣府）に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 子どもの貧困対策を総合的に推進するには、世帯の経済状況のみならず、教育や成育環境などの子どもたちを取り巻く状況を多面的に把握する必要がある。
- 2 「教育の機会均等の確保に関する指標」として、学力に課題のある子どもの状況については特に把握する必要はない。
- 3 「健やかな成育環境の確保に関する指標」として、健康・生活習慣に関する状況の把握の必要性のみが示されている。
- 4 子どもの貧困対策の実施状況を示す指標として、スクールカウンセラーの配置人数（配置率）については特に示されていない。
- 5 物質的・精神的に乏しい指標（必需的な財・サービスの保有・利用状況から貧困を捉える集計的な指標）は、今後は用いないこととなった。

問題 103 「臨床研究に関する倫理指針」（厚生労働省）に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 厚生労働省が策定した「臨床研究に関する倫理指針」は、日本医師会が示した「ヘルシンキ宣言」として示された倫理規範に基づいている。
- 2 厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の目的には、科学的観点において関係者が遵守すべき事項は含まれていない。
- 3 インフォームド・コンセントにおける代諾者は、三親等内の親族でなければならない。
- 4 インフォームド・コンセントについて、被験者が未成年者の場合、研究者等は被験者に分かりやすい言葉で十分な説明を行い、本人の理解が得られれば、被験者のみにインフォームド・コンセントを行う。
- 5 インフォームド・コンセントにおける代理人とは、未成年者および成年後見人の法定代理人または情報の利用目的の通知、開示、訂正など、本人が委任した者である。

精神保健福祉相談援助の基盤

問題 104 精神保健福祉士法に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 社会福祉士及び介護福祉士法に規定される誠実義務に関する内容は、精神保健福祉士法にも規定されている。
- 2 精神保健福祉士の名称は、国家試験に合格すれば使用できる。
- 3 精神保健福祉士が業務を行うにあたっては、医師の指示を必要とする。
- 4 精神保健福祉士は、資質向上の責務として、相談援助に関する知識および技能の向上に努めなければならないと規定されている。
- 5 精神保健福祉士の信用失墜行為に対しては、1年以下の懲役または30万円以下の罰金に処されることが規定されている。

問題 105 精神保健福祉士の役割に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 精神保健福祉士の役割には地域相談支援は含まれていない。
- 2 長期在院患者の地域移行を支援する際に、退院にストレスを感じ拒否的になる患者については、自己決定の視点から支援を行わない。
- 3 精神障害者の支援において、当事者同士の関係性に重きをおくピアサポートを進めるなかで精神保健福祉士が担う役割はない。
- 4 日本精神保健福祉士協会倫理綱領では、個人の尊厳を尊び、人と環境の関係をとらえる視点を持ち、共生社会の実現を目指すことが記されている。
- 5 近年では、児童や高齢者、発達障害、産業などの各領域においても、メンタルヘルスに関するニーズが増え、精神保健福祉士の支援活動に期待する声がある。

問題 106 日本精神保健福祉士協会倫理綱領のなかの倫理基準中「クライアントに対する責務」に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 クライアント自ら決定することが困難な状況にある場合、精神保健福祉士の判断で問題解決を図った。
- 2 精神保健福祉士が事例検討会に事例提出をする際、クライアントに対する支援の質向上を目的としているものであれば本人の了解を得なくてもよい。
- 3 退職をした精神保健福祉士はすでに業務を退いているため、業務上知り得たクライアントの個人情報について秘密保持の義務からは除外される。
- 4 クライアントへの言動について本人から直接批判を受けたが、個人的に納得いかなかったため無視することにした。
- 5 クライアントから個人情報の開示請求を受けたが、第三者の情報についての記載があったため、第三者の情報を保護して開示した。

問題 107 社会福祉士に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 社会福祉士の倫理綱領は、3つの価値と原則、5つの倫理基準から構成されている。
- 2 社会福祉士及び介護福祉士法において、資格の質の担保のために更新研修を受けることが義務づけられている。
- 3 社会福祉士及び介護福祉士法において、社会福祉士の義務における誠実義務では、社会福祉士は相談援助等に関する知識及び技能の向上に努めなければならないとされている。
- 4 2007年（平成19年）に成立した社会福祉士及び介護福祉士法等の一部を改正する法律においては、他職種との連携が強化されることとなった。
- 5 社会福祉士が必置とされている機関や施設はない。

問題 108 2014年に採択されたソーシャルワークのグローバル定義に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 原理に「個人的責任」と「多様性尊重」が付け加えられた。
- 2 定義のなかで、ソーシャルワークは「実践に基づいた専門職であり学問である」とし、実践と研究をソーシャルワークの両輪として位置づけている。
- 3 ソーシャルワーク専門職の中核となる任務は、「社会変革」と「人々のエンパワメントと解放」の2点に集約される。
- 4 グローバル定義では、欧米の理論や知識に対して評価しており、先住民を含めた諸民族の知にまでは踏み込んでいない。
- 5 「実践」においては、ソーシャルワーク実践の優先順位は、文化的、歴史的及び社会経済的条件によって相違がないよう記されている。

問題 109 精神保健福祉士が行う相談援助に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神保健福祉士は利用者を保護する観点から、利用者が不利になるような情報は伝えないようにする。
- 2 課題中心モデルは、利用者の問題に焦点をおき、変化すべき行動を観察することによって、問題行動を修正しようとする考えをいう。
- 3 ネットワークの構造は柔軟で開放的であるため、常に変化するものである。
- 4 社会資源の選択において利用者の自己決定能力が著しく阻害されている場合は、精神保健福祉士が本人の代わりによりよい資源を選択することが求められる。
- 5 ストレスコーピングとは、病気や障害によって失われたものを回復する過程をいう。

問題 110 障害者の権利擁護について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 世界人権宣言は、すべての障害者によるあらゆる人権及び基本的自由の完全かつ平等な享有を促進し保護し、確保するための包括的総合的な国際条約である。
- 2 障害者の権利宣言は、すべての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく、共生する社会の実現を目指していくことを目的としている。
- 3 障害者の権利に関する条約は、すべての人間は生まれながらにして自由であり、尊厳と権利について平等であることが示されている。
- 4 「障害者差別解消法」は障害者の権利を保護し、それらの福祉、リハビリテーションを確保する権利を宣言したものである。
- 5 日本精神保健福祉士協会倫理綱領では、精神保健福祉士はクライアントの社会的復権・権利擁護と福祉のための専門的・社会的活動を行う専門職であることが明記されている。

(注) 「障害者差別解消法」とは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」のことである。

問題 111 Aさん（35歳，男性）は，幼い頃に父親を亡くし，母親に育てられてきた。高校時代に周囲の視線が気になり，一時不登校となった。その時に精神科を受診し，統合失調症と診断されたが，その後大学に進学し卒業した。大学卒業後は実家で母親と生活しながら，障害者雇用の枠で一般企業で働いていた。しかし，母親が突然亡くなり，生活環境が一変した。また同時期に仕事上のストレスも重なり，統合失調症が再発し，精神科病院に入院した。3か月の入院加療の後，症状も落ち着き，主治医も退院可能と判断し，AさんはB精神保健福祉士から退院を勧められた。退院後は単身生活になるため，Aさんは生活全般について不安をもっている。

次のうち，B精神保健福祉士のかかわりとして，最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 不安があるのであれば，退院について考えることを即座に中止するようアドバイスをする。
- 2 退院後Aさんの地域生活が円滑になるよう近隣住民に対して，Aさんの病状や生活スキルなどをB精神保健福祉士がAさんに代わって知らせる。
- 3 どのような点が不安なのかを聞き，その不安を解消し，Aさんが地域で生活しやすい方法をともに考える。
- 4 Aさんの不安を真摯に受け止め，精神医療審査会に不服申し立て（審査請求）を行うことをアドバイスする。
- 5 主治医も退院が可能と判断していることから，B精神保健福祉士は，主治医の指示に従い退院するようAさんに促す。

問題 112 相談援助にかかわる専門職の役割として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 スクールソーシャルワーカーは、事件・事故などの緊急時における被害児童・生徒の心のケアや教職員のストレスマネジメントを行う。
- 2 介護支援専門員は介護保険施設に配置され、利用者の自立を目指してリハビリテーションを行うことを業務とする。
- 3 社会復帰調整官は、「医療観察法」の対象者に対して生活環境の調査や調整、関係機関相互間の連携を行う医療機関に配属された専門職である。
- 4 精神保健福祉相談員は、精神保健福祉センターや保健所等に配置され、精神障害者やその家族等を訪問し、必要な指導を行う役割を担っている。
- 5 相談支援専門員は、福祉サービス事業所に配置され、ケアマネジメントの手法を用いてサービス利用にかかるアセスメントを行い、個別支援計画を作成する。

(注) 「医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。

(精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題 1)

次の問題を読んで、問題113から問題115までについて答えなさい。

[事 例]

精神科診療所に勤務するC精神保健福祉士は、Dさん(40歳、女性)の主治医から生活問題への相談支援を要請され、担当となった。Dさんは婚姻中に夫からの暴力被害が酷く2年前に離婚し、現在は娘Eさんとアパートで暮らし、パートの掛け持ちで生計を立てている。DさんはC精神保健福祉士との定期面接の初回で中学2年生のEさんに対する心配事を話した。Dさんの話では、Eさんが学校を欠席気味のため心配して話を聞いたところ、かつて父親から暴力を受けたことによる自己否定の感情が強く、将来に希望をもてず、時々死にたくなってしまうと聞かされた。DさんはEさんの暴力被害を気づかずにいたことで申し訳なさや自責の念で複雑な気持ちになったという。また、痩せが気になったのでさらに聞いたら、食べ吐きをしていて、最近は生理も不順になったことをやっと話してくれたとのこと。腕に切り傷も見えて心配になったが、それ以上深く聞けないという。

翌週の面接では、学校の担任から、万引きを繰り返すグループからEさんが誘われている様子なので家庭でも注意するよう求められたが、暴力被害の件でEさんに申し訳なさを感じているDさんは、どう対応したらよいか困っているのだと話された。C精神保健福祉士は、Dさんのためにも、教育現場の専門家に状況を話してEさんへの支援を求めることについて、Dさんの了解を得て連絡することにした。(問題113)

Eさんの様子を聞いたC精神保健福祉士は、主治医に相談し、Dさんの受診時にEさんに同伴してもらい、話を聞いた。結果、Eさんも医師の診察を受け、摂食障害とうつ症状の診断がつき、今後、臨床心理士のカウンセリングを受けることとなった。(問題114)

半年後にDさんは、脳梗塞で入院中の父親が退院可能となったが、後遺症や軽度の認知症があり単身生活が困難なうえに同居も難しいと、新たな心配事を話してきた。C精神保健福祉士は助言をし、Dさんと近日中の面接を約束した。(問題115)

問題 113 次の記述のうち、**C**精神保健福祉士の対応について、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 自宅と中学校がある地域の児童相談所に相談し、児童福祉司に支援を求める。
- 2 Eさんの通う中学校区内の保健所の保健師に、教員との連携のもとEさんの支援を依頼する。
- 3 Eさんの通う中学校に配置されているスクールカウンセラーに連絡を取り、Eさんのカウンセリングと生活面のケアを含め支援を依頼したいと話す。
- 4 児童生活支援員に連絡をとり、不良行為のおそれのある生徒としてEさんを指導してもらう。
- 5 Eさんの通う中学校を担当するスクールソーシャルワーカーに連絡を取り、Eさんの状況改善と、Dさんの家族支援の観点から連携・協働を求める。

問題 114 次の記述のうち、Eさんの支援について、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Eさんへの支援は多機関や多職種チームケアが求められるが、教育機関と医療機関とで分野が異なるため、関係者が集まって協議する場合は必ずしも必要ではない。
- 2 DさんとEさんの両者の情報把握や支援方針を考えるうえで、C精神保健福祉士がEさんの担当を兼ねることが望ましい。
- 3 Dさんから聞いたEさんの様子から、C精神保健福祉士は医療的ケアの必要性を感じ、医師に相談しEさんに受診を勧めた。
- 4 Eさんの治療や生活問題の支援には、医師を頂点に指示系統のはっきりしたマルチディシプリナリ・モデルによる多職種チームアプローチが不可欠である。
- 5 Eさんの支援は多職種間で行われることが予測され、職種間で生じる対立やチーム内の葛藤は必然の現象ととらえ、個々のチームがもつ自浄機能を促す。

問題 115 次の記述のうち、この時点での、Dさんに対するC精神保健福祉士の助言として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「仕事と娘さんのことで精一杯でしょうから、お父様が介護保険の入所サービスが受けられるように相談しましょう」
- 2 「お父様との同居は難しいですね。お父様の今後の生活について関係機関の方も交えて一緒に考えていきましょう」
- 3 「娘さんの調子がよくなったら、お父様の介護を手伝ってもらえないか相談してみたらいかがですか」
- 4 「今は家族のことを最優先に考えるときです。仕事を辞めて生活保護を受けながらお父様の介護をされたらいかがですか」
- 5 「地域には認知症に関する相談や情報が得られる認知症カフェがあります。利用されてみてはいかがですか」

(精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題 2)

次の事例を読んで、問題116から問題118までについて答えなさい。

〔事例〕

Fさん(72歳、女性)は、23歳の時に職場の男性上司の厳しい指導をきっかけに統合失調症を発症した。以降、退職し親元で療養生活を送っていた。41歳の時に自立を目指して通院先である精神科クリニックのデイケアに通所を開始したが、元上司と同年齢ぐらいの男性メンバーに対しては緊張が強く、ひどいときは不眠や幻聴に苦しむこともあった。デイケアスタッフにも相談したが、緊張は改善されず、結局デイケアを2年で退所し、その後、相談支援事業所に相談しながら、苦手とする男性利用者がいない施設を探し、利用していた。そのようななか、Fさんが52歳の時、同居していた母親が亡くなり、Fさんは一人暮らしとなったが、周りの心配をよそに、大きな病状の悪化を招くこともなく安定した生活を送っていた。現在は、地域活動支援センターに通所したり、自宅で編み物や家事をして過ごしている。また、地域活動支援センターに苦手とする利用者が来ても、通う曜日を変えるなどして、うまく対処している。

しかし、ある日、相談支援事業所のG精神保健福祉士に相談があると言ってきた。話を聞くと「最近、アパートの隣の部屋に引っ越してきた人が、私のいない間に勝手に私の部屋に入って物を盗んでいくみたいなのです。けれど、その人は私の苦手な感じの人なので直接は確認できない」とのこと。なぜそう思うのか尋ねると、「なんとなくそういう気がする」と言う。(問題116)

このことをきっかけにFさんはアパートでの一人暮らしに不安を訴えるようになった。ちょうどその頃、相談支援事業所の法人でグループホーム(共同生活援助)の建設が計画されていた。Fさんも興味があるらしく、相談を受けたG精神保健福祉士は、Fさんに施設について説明した。(問題117)

その後、Fさんは施設に移ったものの、アパートでの出来事や共同生活であるということもあり、母の遺産が入った通帳管理が不安であると言う。そこで、G精神保健福祉士は、Fさんと社会福祉協議会へ相談に行き、日常生活自立支援事業の手続きに付き添った。(問題118)

問題 116 次の記述のうち、この時点での**G**精神保健福祉士が行った**F**さんへの対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 診察に同行することを提案し、早急に受診するよう伝えた。
- 2 苦手を克服するチャンスと考え、相手にどのように言えばよいかを社会生活技能訓練（SST）で練習することを**F**さんに提案した。
- 3 **F**さんに人を疑うことはよくないことを伝えた。
- 4 **F**さんに認知症の簡易検査を実施した。
- 5 **F**さんの了解を得て、アパートを訪問した。

問題 117 次の記述のうち、この時点での**G**精神保健福祉士の**F**さんに対する発言として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「グループホームに入居すれば、何の不安もなくなるから入居した方がよいと思いますよ」
- 2 「グループホームは共同生活なので、我慢できないと生活できないけれどその覚悟はありますか」
- 3 「グループホームに入居するとどのような生活になると思いますか」
- 4 「グループホームに入居するのは、希望者の自己決定が尊重されますので応募して大丈夫ですよ」
- 5 「グループホームに入居するには、年齢制限が法律で決まっているので**F**さんは難しいです」

問題 118 次のうち、この時点でG精神保健福祉士が行った支援として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 シチズン・アドボカシー
- 2 パーソナル・アドボカシー
- 3 リーガル・アドボカシー
- 4 パブリック・アドボカシー
- 5 ピア・アドボカシー

精神保健福祉の理論と相談援助の展開

問題 119 我が国の精神保健医療福祉の歴史に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 1919年（大正8年）に制定された精神病院法の施行により精神病者監護法は廃止され、私宅監置されていた精神障害者は精神病院に入院した。
- 2 1965年（昭和40年）の精神衛生法改正により、保健所による精神衛生業務が充実し、精神障害者の地域生活支援が一気に進むこととなった。
- 3 1995年（平成7年）の「精神保健福祉法」により、精神障害者等の「地域生活と自立の促進」が位置づけられた。
- 4 1987年（昭和62年）に精神衛生法が改正され、成立した精神保健法により、精神医療審査会が新設された。
- 5 2013年（平成25年）に改正された「精神保健福祉法」により、医療保護入院に保護者の同意がなくなったため、精神障害者家族の負担は軽減した。

(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

問題 120 精神障害者支援の理念や方法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 リカバリーとは、症状がすべてなくなり、病気が完全に治癒することである。
- 2 ストレングスモデルとは、クライアントのウィークネス（脆弱性）をストレングスに読み替える技法である。
- 3 ソーシャルインクルージョンとは、社会的に排除された人たちが、そうした状況を改善する力を自ら高められるように支援することである。
- 4 アドボカシーとは、自己決定ができないクライアントに代わって、支援者が支援方針を決めることである。
- 5 レジリエンスとは、人の回復する力、苦難に耐えて自分自身を修復する力を意味する。

問題 121 就労継続支援A型事業所に勤務するHさん（50歳、男性）は、障害基礎年金2級と工賃で生活費をやりくりしながらアパート生活を送っている。主治医や就労継続支援A型事業所の生活支援員は、金銭管理に不安があるため、日常生活自立支援事業の利用を勧めている。しかし、Hさんは、好きな競馬に行けなくなるからと事業の利用を拒否している。Hさんは、計画相談支援を担当している相談支援専門員に「好きな競馬に自分の金を使って何が悪い」「金は使い過ぎないようにすればいいだろ」「競馬のために働いているんだ」と愚痴をこぼしている。

次の記述のうち、相談支援専門員のHさんへの支援として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 日常生活自立支援事業の利用を強く勧める。
- 2 ギャンブルをしてはいけないと諭す。
- 3 就労継続支援A型事業所で金銭管理をするようにお願いする。
- 4 他の趣味を見つけるように助言する。
- 5 競馬の魅力について聞く。

問題 122 精神科リハビリテーションに関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 精神科リハビリテーションの実施にとって、薬物療法は必要かつ十分な条件である。
- 2 精神科リハビリテーションにおけるチームは、専門職のみで構成される。
- 3 ストレングスモデルでは、支援者の活動の主要な場所は地域であるとされている。
- 4 精神科リハビリテーションは、当事者が機能を回復するのを助けるだけでなく、専門家が最大限に介入することで、地域に定着して暮らせるようにすることである。
- 5 精神科リハビリテーションにおいて、支援のなかで健全な依存を増やすことは、結果的には本人の自立につながるとされている。

問題 123 医療機関における精神科リハビリテーションの対象者に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 レクリエーション療法は、病気のために余暇活動が制限されたり、自発的に行うことができない人が対象である。
- 2 作業療法は、通院中の患者に対して行った場合、診療報酬の算定の対象としていない。
- 3 心理教育は、家族に対して行われるプログラムであり、障害のある当事者に対しては行わない。
- 4 社会生活技能訓練（SST）は、通院中の患者に対して行った場合のみ診療報酬の算定の対象としている。
- 5 包括型地域生活支援プログラム（ACT）は、軽い精神障害のある人々を対象とする。

問題 124 Jさん（50歳，男性）は，精神科病院に入院して7年が経過している。

主治医からは退院を勧められているが，Jさんは退院に対して消極的になっていった。しかしながら，Jさんが親しくしていた仲間が退院していく様子や，この地域で活動しているピアサポーターらによる病棟への訪問に加え，この精神科病院に勤めているK精神保健福祉士を中心とする病棟職員の働きかけもあり，徐々に退院に対する意欲が出てきた結果，自身の退院について，K精神保健福祉士らの助けも借りながら，主体的に考えるようになってきた。周りの人から頼られることの多いJさんだが，K精神保健福祉士は，退院後の生活を考えた際，Jさんが自ら抱えている問題について人に伝えることが苦手であることが気にかかっていた。Jさんは，K精神保健福祉士の勧めで，病院で行われているプログラムに参加することにした。

次のうち，JさんがK精神保健福祉士に参加を勧められたプログラムとして，最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ピアサポート養成講座
- 2 社会生活技能訓練（SST）
- 3 森田療法
- 4 アルコホーリクス・アノニマス（AA）
- 5 家族心理教育

問題 125 精神保健福祉士が行う相談援助の展開に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 アウトリーチには、ケース発見のための情報収集が含まれるが、本人が課題解決に向けての意欲を高める動機づけの活動は含まれていない。
- 2 ケース発見の方法には、精神保健福祉士が所属する機関への直接的な相談があるが、相談された機関では必ず相談援助を展開する。
- 3 プランニングとは、アセスメントで明らかになったニーズに対し、精神保健福祉士のみで支援計画を策定する専門的な行為である。
- 4 プランニングでは、短期目標、中期目標、長期目標を設定するスキルが求められるが、短期目標にはクライアントの希望や熱望を記載する必要がある。
- 5 モニタリングでは、支援計画の進捗状況の確認に加え、新たなニーズが生じていないかを評価する。

問題 126 Lさん(22歳、女性)は大学の大人数での講義の内容が理解できず、また友人関係での言葉の行き違いや相手の意図がわからず、コミュニケーションを取るうえでトラブルになることが多かった。その後抑うつ的になったため、近くの精神科クリニックで診察を受け、その結果、自閉症スペクトラム障害の診断を受けた。Lさんは、年齢の近い新人のソーシャルワーカーとの面接では、自分の興味のある話題については一方的に饒舌に発言するが、ソーシャルワーカーの質問に対してはほとんど返答がなく、面接場面でもコミュニケーションがうまく取れていない状態であった。

このとき、Lさんへの質問の仕方として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「理解できない授業では、何が一番困っていますか？」
- 2 「理解できない授業は、どのような感じの内容ですか？」
- 3 「なぜ、友人とうまく付き合えないと思いますか？」
- 4 「友人とSNSでのやり取りはしていますか？」
- 5 「友人とトラブルがあったのは、どうしてだと思いますか？」

問題 127 家族会に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 精神障害者家族会の始まりは、入院患者の退院に伴い、精神科病院では退院先の家族に対する服薬指導教室を行うことが義務づけられたことからである。
- 2 家族会でお互いの経験や苦労について「わかちあう」ことは重要であるが、個人情報守秘義務があるため、必ず専門職を介在させることが必要である。
- 3 家族会は、病気や治療に加え当事者とかかわるためのよりよい対応方法や対処法、地域の社会資源、さまざまな制度について学びあう場である。
- 4 家族が直面している困難や課題について、家族の立場から発言や広報活動を行うことは、現状では行われていない。
- 5 現在、全国組織として「わかちあい・学びあい・運動の3本柱」を行っている家族会の団体は、全国精神障害者家族会連合会である。

問題 128 スーパービジョンの形態について記載された次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 個人スーパービジョンとは、ソーシャルワークの倫理綱領や業務指針などに照らして、自身の業務を検討し、セルフアセスメントを行う形態である。
- 2 ピアスーパービジョンとは、1人のスーパーバイザーが複数のスーパーバイザーに対して行う形態である。
- 3 ライブスーパービジョンとは、固定的なスーパーバイザーが不在で、スーパーバイザーが複数の場合、お互いに意見を出し合い検討する形態である。
- 4 ユニットスーパービジョンとは、複数のスーパーバイザーが、1人もしくは複数のスーパーバイザーに対して行う形態である。
- 5 セルフスーパービジョンとは、スーパーバイザーとスーパーバイザーが1対1で行う形態である。

問題 129 M精神保健福祉士は今年度からU相談支援事業所に移動となった。付近にはV精神科病院があり、デイケアグループが年に数回、U相談支援事業所の喫茶コーナーに訪れるプログラムを行っている。以前、そのプログラムに参加していたAさんが、作業所等で働くことを希望して、B看護師とともにU相談支援事業所を訪れた。M精神保健福祉士は、安心して相談できる雰囲気づくりを行ったうえでAさんと面接を行い、Aさんの相談援助の希望を確認し、Aさんのニーズや状況を把握していった。

次のうち、この段階でM精神保健福祉士が行ったケアマネジメントの過程を説明するものとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 エバリュエーション
- 2 インテーク
- 3 インターベンション
- 4 リンケージ
- 5 アセスメント

問題 130 統合失調症で精神科病院に任意入院中のCさん（61歳，男性）は，半年後の退院を目指すこととなった。しかし，Cさんにとっては5年ぶりの一人暮らしとなることや，Cさんの年齢や薬の飲み忘れを心配した弟からは，グループホームに入ったほうが安心なのではないかと言われている。Cさんは気ままな一人暮らしを望んでいるが，退院が現実的になるにしたがって病気や服薬のことなど不安を感じるようになってきた。

精神科病院のD精神保健福祉士は，Cさんの地域生活に向けて，医療と地域の関係機関を含めたチームで支援することが望ましいと考えていた。

次のうち，Cさんが利用するサービス等として適切なものを2つ選びなさい。

- 1 自発的活動支援事業
- 2 精神科訪問看護・指導
- 3 訪問介護
- 4 障害者就業・生活支援センター
- 5 地域相談支援

問題 131 精神保健福祉ボランティアに関する次の記述のうち，正しいものを1つ選びなさい。

- 1 より専門的な活動ができるように精神保健福祉士の倫理綱領を遵守させる。
- 2 当事者の体験談は個別性が高いため，ボランティア養成講座の内容としては適切でない。
- 3 相談支援事業所がボランティアセンターの役割を担う。
- 4 精神保健福祉ボランティア養成は普及啓発の側面もある。
- 5 精神保健福祉ボランティアは専門職でないため，クライアントの秘密を守らなくてもよい。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題1)

次の事例を読んで、問題132から問題134までについて答えなさい。

[事例]

Eさん(35歳, 男性)は従業員200名の医薬品メーカーで働いており, 妻のFさん(30歳, 女性)と2人暮らしである。以前から夫婦の関係はうまくいっておらず, 現在では会話もなく必要事項をメールするのみとなっている。また不景気による人員削減でEさんの最近1か月あたりの時間外・休日労働時間は月80時間を超え, 職場のストレスチェックで高ストレス者との結果が出た。Eさんとしては自身のメンタルヘルスについて気になったものの, 職場の上司や事業場内産業保健スタッフに相談するのも気が引けることから, 以前に散歩で訪れたことのある喫茶店が併設されたW保健所のG精神保健福祉相談員(精神保健福祉士)のところへ相談に訪れた。

Eさんは几帳面な性格で責任感も強く, 職場でも正確な仕事ぶりを評価されていた。しかし, 最近では眠れない日が続いて仕事上のミスを指摘されるようになってしまい, 上司からしばらく仕事を休んではどうかと言われているという。Eさんは内向的な性格でもあり, 元々夫婦のコミュニケーションは少なかったが, 最近では仕事等のストレスから辛くあたってしまい, 妻のFさんとの折り合いはさらに悪化しており, 「話しかけても相手にしてもらえないだろう」と思い, 妻にも相談できずにいたという。(問題132)

その後, G精神保健福祉相談員に相談を重ねたEさんは, 妻のFさんの付き添いでYクリニック(精神科診療所)を受診し, 職場を休職してYクリニックのうつ病リワークプログラムを行う精神科デイ・ケアに通うこととなった。(問題133) 妻のFさんとうつ病の勉強会や家族グループにも参加するようになり, 夫婦のコミュニケーションも行われるようになっていった。

数か月後, Eさんは精神科デイ・ケアに遅れて来る日があるものの, リワークプログラムにも積極的に参加するようになり生活リズムも回復してきた。ある日, 焦った様子のEさんからYクリニックのH精神保健福祉士に「休職が続いて職場に迷惑をかけてしまっている。休職にも限度があると思うし, このままでは解雇されてしまう不安があるので, 早く職場に復帰したい」と相談があった。(問題134)

問題 132 次の記述のうち、この時点でのG精神保健福祉相談員のEさんへの対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 まずは夫婦で一緒に相談に来てくれるように伝える。
- 2 Eさんの仕事や生活の様子、感じている問題や相談先等について聞く。
- 3 コミュニケーション教室や夫婦の会話勉強会への参加を促す。
- 4 うつ病に詳しい医療機関を紹介する。
- 5 Eさんのコミュニケーション上の課題について整理する。

問題 133 次の記述のうち、Eさんが利用することになった精神科デイ・ケアについて、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 気分障害のデイケアでは、多様な疾患の利用者を入れることが利用者の安心感やスタッフの負担軽減につながるとされる。
- 2 精神科デイ・ケアの効果として、コミュニケーションスキルや社会性の向上があげられる。
- 3 インスティテューションナリズム（institutionalism；施設症）を防ぐため、近年では精神科デイ・ケアを居場所として捉えないほうがよいとされている。
- 4 精神科デイ・ケアは1日8時間を標準として行われる。
- 5 精神科デイ・ケアの内的治療構造には、プログラムのほか、目標設定やスタッフの役割分担が含まれる。

問題 134 次の記述のうち、この時点でのH精神保健福祉士の対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 主治医からEさんの上司に仕事上の配慮を指示してもらえるよう話してもらう。
- 2 本人の自己決定を尊重し、事業場内産業保健スタッフと相談したうえで、試し出勤から仕事を開始する。
- 3 職場にEさんの休職満了期日等について確認を行い、職場とEさんの休職満了等の期日や今後の見通しなどについて共有を図ることを提案する。
- 4 再燃を防ぐため、本人が休職に至った経緯や要因を考えて気に病むことがないように他のことに気を向けてもらうようにする。
- 5 Eさんに復職判定は主治医が行うものであることを伝え、主治医に相談するようにしてもらう。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 2)

次の事例を読んで、問題135から問題137までについて答えなさい。

〔事例〕

母子家庭で育ったJさん(48歳, 女性)は大学卒業後, 出版社へ就職し, 雑誌の編集担当部署で働いていた。多忙な日々を送っていたが, 28歳の頃から同僚に対する被害妄想が目立つようになり, 精神科受診の結果, 統合失調症と診断された。治療に専念するため退職し, その後, 母の同意による入院を繰り返していた。35歳の頃, 母が他界し, それ以降10年以上の入院が続いている。Jさんは「身寄りがいない。退院する自信もない」と頑なに退院を拒否している。

Jさんには入院中に知り合ったKさん(30歳, 女性)という友達がいる。Kさんも出版社で働いていたため, 仕事に関する共通の話題も多く, 年齢は離れているものの気が合い, 一緒にいることが多かった。Kさんは退院後も頻回にJさんの面会に訪れ, 充実した日々を送っていることを報告してくれている。

ある日, 病棟看護師よりJさんが担当のL精神保健福祉士と話がしたいと言っていると連絡が入った。JさんはL精神保健福祉士に, 自分はKさんのように若くないし, 家族もいないため, 1人で地域で暮らす自信はないと話した。面接をしながらL精神保健福祉士は, Jさんが退院への強い不安を訴える一方で, 退院に対して関心をもち始めているのではないかと感じた。(問題135)

L精神保健福祉士はJさんのように退院に不安を感じている入院患者が多くいることを踏まえ, 退院への不安について話し合うグループワークの開催を病棟管理者に提案した。病棟スタッフとのミーティングを重ね, グループワークは地域移行支援に力を入れ, ピアサポーターの養成講座も開催しているZ相談支援事業所と協力して進めることとなった。グループワークの内容については, L精神保健福祉士がZ相談支援事業所と検討を重ねて企画した。(問題136)

グループワークに継続して参加したJさんは, 数か月後, L精神保健福祉士に「不安は尽きないけど, 退院に向けてチャレンジしてみたい」と言ってきた。L精神保健福祉士は地域移行支援・地域定着支援について丁寧に説明し, Jさんも利用を希望したため, Z相談支援事業所へ連絡をとることとなった。(問題137)

問題 135 次の記述のうち、この時点でのL精神保健福祉士の対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Jさんの不安が強いため、不安を和らげる薬の処方を見直しを主治医に依頼する。
- 2 Jさんに自信をもってもらうため、退院までに取り組むことを指示する。
- 3 Jさんが不安になるのはKさんの面会が影響しているため、看護師にKさんの面会を制限するよう提案する。
- 4 Jさんの不安を和らげるため、このままずっと入院していてもいいと伝える。
- 5 Jさんの話をもっと聞いて、Jさんのことを理解したいため、定期的な面接を提案する。

問題 136 次の記述のうち、L精神保健福祉士が企画するグループワークの内容として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 社会生活技能訓練（SST）を行い、退院への不安に対処できるよう練習を繰り返す。
- 2 医師から統合失調症について説明してもらい、病気の理解の促進と服薬遵守を図る。
- 3 退院への不安について話しやすい雰囲気づくりを心掛け、同様の不安を抱えている参加者同士の交流を促し、仲間意識を高める。
- 4 入院経験のあるピアサポーターに来てもらい、地域でどのような生活を送っているのか、体験談を話してもらう。
- 5 退院への不安を感じるのは退院に対する認知の歪みによる影響のため、臨床心理技術者による集団認知行動療法を行う。

問題 137 次の記述のうち、地域移行支援・地域定着支援について、L精神保健福祉士がJさんに説明した内容として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 地域移行支援の利用対象者は、3年以上入院している精神障害者である。
- 2 地域移行支援・地域定着支援の実施機関は指定特定相談支援事業者である。
- 3 地域移行支援の支援内容は、地域生活に移行するための活動に関する相談、外出への同行などであり、住居の確保については含まれていない。
- 4 地域移行支援を利用するためには、都道府県に申請する。
- 5 地域定着支援の利用において、グループホームや宿泊型自立訓練施設の入居者は対象にならない。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 3)

次の事例を読んで、問題138から問題140までについて答えなさい。

[事 例]

Mさん(26歳, 女性)は, 夫のAさん(34歳)と3歳になる娘と暮らしている。Aさんは会社員で普段はおとなしい性格なのだが, 家でアルコールを飲み始めるととたんに乱暴な物言いになる。娘が生まれた頃から, 些細なことで怒鳴るようになり, Mさんに対して, 「誰の金で生活していると思っているんだ!」「子どものことにかまけて家のことをおろそかにするな!」と強く言うようになった。最初はMさんも「私だって頑張っているのよ」と反論していたが, そのことでAさんの暴言は悪化し, 次第に物にあたるようになったため, MさんはAさんの機嫌を損ねないように発言を我慢するようになった。アルコールが家にないと怒鳴るため, 絶えず家のなかにあるアルコールを切らさないようにした。Aさんは, 飲んでいないときには暴言はなく, むしろ子育てにも積極的であることから, Mさんも「根は良い人だから」「私の対応が悪いんだ」「きっといつかは気づいて改善してくれる」と期待していた。

しかし, Aさんの暴言は次第にエスカレートし, ついに, Mさんに対して暴力を振るうようになった。娘の3歳児健診の際に, Mさんの腕にあざを見つけた保健センターの保健師から声をかけられたため, 「夫がアルコールを飲み暴力を振るう」と相談したところ, 保健所へ相談に行くように助言された。Mさんは, 保健所が行っている市民向けこころの健康相談窓口へ行き, 対応したB精神保健福祉相談員(精神保健福祉士)に今までの出来事を伝えた。(問題138)

Mさんは, 保健所での相談を継続しながら, B精神保健福祉相談員から紹介された保健所が開催しているアルコール家族教室へ参加するようになった。(問題139)

家族教室への参加によりMさんの行動は変化し, 「今は一緒に暮らすことはできない」と感じ, 娘を連れて実家へ住まいを移した。すると, Aさんは次第に会社を休んで日中から飲酒をするようになったという。会社からMさんのもとに連絡が入り, Mさんは再度, Aさんの職場の上司とともにB精神保健福祉相談員のもとを訪れた。(問題140)

問題 138 次の記述のうち，初回相談における **B** 精神保健福祉相談員の **M** さんに対する対応として，**最も適切なものを1つ** 選びなさい。

- 1 「あなたの行為が問題を悪化させてしまっていますよ」と問題点に直面化させる。
- 2 「離婚したらどうですか」と提案する。
- 3 「お子さんのためにはここが我慢のしどころですよ」と励ます。
- 4 「あなたの対応も問題ではないですか」と反省を促す。
- 5 「これからは一緒に考えていきましょう」とねぎらう。

問題 139 アルコール家族教室のプログラムに関する次の記述のうち，**最も適切なものを1つ** 選びなさい。

- 1 本人の飲酒をコントロールする手段のレクチャー
- 2 断酒会会員であるアルコール依存症本人の体験発表
- 3 家族自身の生き立ちを振り返る内観療法
- 4 精神障害者家族会の紹介
- 5 家族が行ってきた本人への対応についての相互批判を行うミーティング

問題 140 次の記述のうち，この時点で，**A** さんのアルコール問題への介入に関する **B** 精神保健福祉相談員の支援として，**最も適切なものを1つ** 選びなさい。

- 1 精神科病院へ連絡し，措置入院が可能かどうか問い合わせる。
- 2 **A** さんが酒を飲んでいる夕方を見計らって，自宅を訪問する。
- 3 **A** さんの職場の上司と相談し，会社の産業保健師に協力を依頼する。
- 4 アルコール専門医療機関の医師に訪問診療を依頼する。
- 5 地域包括支援センターの社会福祉士に自宅訪問を依頼する。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 4)

次の事例を読んで、問題141から問題143までについて答えなさい。

[事 例]

Cさん(31歳, 男性)は, 弁護士を目指して大学の勉強やアルバイトに励んでいた。しかし, アルバイト先の上司とのトラブルをきっかけに, 大学2年生の秋頃から, 「上司が自宅に盗聴器をしかけて, 自分の話をすべて聴いている」と訴えるようになった。両親が諭すと, Cさんは怒り出し, 暴力を振るうこともあった。両親は悩んだ末, 精神科病院を受診するよう, Cさんを説得した。しぶしぶCさんが受診をすると, 統合失調症と診断され, 3か月間の入院治療を要した。退院後, 大学復学を目指していたCさんは薬の副作用を嫌い, 怠薬しては体調を崩して再入院するという生活を数年繰り返した。そのうち, 両親以外との交流もなくなり, 復学も就職も結婚もできず, Cさん自身も漠然とした不全感を抱えていた。

28歳の頃, Cさんは主治医に「このままではいけないと思うが, どうしていいかわからない」と相談した。主治医から院内の医療福祉相談室に面接依頼があり, D精神保健福祉士が初回面接を担当した。CさんはD精神保健福祉士に, 「大学を中退し, 弁護士の夢も叶えられなかったが, とりあえず働かなければいけない」「薬を飲むと, 余計に調子が悪くなる気がして, すぐやめてしまう」と語った。(問題141)

初回面接以降, Cさんは精神科デイ・ケアの仲間との交流を通じて, 少しずつ服薬の必要性を感じるようになった。半年後, D精神保健福祉士の紹介で, Cさんは市内の就労移行支援事業所へ通所を開始した。担当のサービス管理責任者であるE精神保健福祉士は, Cさんの希望を踏まえ, 支援計画を立案した。Cさんは得意なパソコンの入力作業を通じて, 就職に対する手応えを感じるようになった。通所から3か月後, E精神保健福祉士は, Cさんの今後の希望や支援目標の進捗を確認した。(問題142)

その後, 1年半が経過した。この間, Cさんは仲間との交流も活発になり, 交際相手との出会いも生まれた。E精神保健福祉士との面接では, 「新しい夢や目標をもてるようになったのも, 同じ病気のある仲間のおかげだと思う。これからは, 自分の闘病体験を活かして, 仲間の力になりたい」と笑顔で語った。(問題143)

問題 141 次の記述のうち、この時点でのD精神保健福祉士のCさんへの声かけとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「服薬をやめてしまうと、働くことは難しいですね」
- 2 「ご家族とともに、心理教育を受けてみませんか」
- 3 「薬を飲むと、体調が悪くなる気がするのですね。何か生活に支障はありますか」
- 4 「薬を飲みたくないのなら、仕方ありませんね。自由にしてください」
- 5 「前向きに新しい生活を始めるために、何か目標をもてるとよいですね」

問題 142 次の記述のうち、この時点でのE精神保健福祉士のCさんへのかかわりとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 Cさんの作業能力の向上に焦点をあてて、達成状況を点検する。
- 2 現在の支援計画では、Cさんの課題解決が難しいので、支援の終結を提案する。
- 3 E精神保健福祉士が、専門的な知見のもと、目標の優先順位を見直す。
- 4 パソコンの作業以外に、関心のある就職分野について確認する。
- 5 Cさんが安心感をもてるよう、退所後も支援を再開できることを伝える。

問題 143 次の記述のうち、今後のCさんについて、E精神保健福祉士の提案として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 精神保健福祉ボランティアの養成講座を紹介する。
- 2 通信教育課程で、精神保健福祉士国家資格を取得してはどうかと提案する。
- 3 もう一度弁護士を目指すために、実際に働く人の話を聴く機会を提供する。
- 4 一人暮らしに向けて、グループホームの利用手続きを進める。
- 5 ピアサポーター養成講座の情報提供を行う。

精神保健福祉に関する制度とサービス

問題 144 我が国の精神障害者に関する法律に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 1900年（明治33年）制定の精神病者監護法で規定された私宅監置（座敷牢）は、1919年（大正8年）の精神病院法の制定により廃止となった。
- 2 1950年（昭和25年）制定の精神衛生法で初めて、患者本人の自由意思による入院となる任意入院制度が設けられた。
- 3 1987年（昭和62年）制定の精神保健法によって、人権や処遇に関して通院時及び入院時の書面による権利の告知が義務付けられた。
- 4 障害者基本法および地域保健法の制定を背景に、1995年（平成7年）に精神保健法は「精神保健福祉法」に改正された。
- 5 2013年（平成25年）改正の「精神保健福祉法」で、長らく続いた保護者制度が廃止となった。

(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

問題 145 精神障害者保健福祉手帳に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神障害者保健福祉手帳の所持者は、あわせて知的障害を有している場合であっても、いずれか一方の障害者手帳しか所持することはできない。
- 2 障害年金をすでに受給している者が、精神障害者保健福祉手帳を取得する際には年金と手帳の等級は自動的に同じものとなる。
- 3 精神障害者保健福祉手帳の障害等級2級の対象は「日常生活が著しい制限を受けるか、又は日常生活に著しい制限を受けることを必要とする程度のもの」とされている。
- 4 精神障害者保健福祉手帳は、プライバシーへの配慮の観点に基づき、性別の記載も顔写真の貼り付けもされない。
- 5 精神障害者保健福祉手帳は、医師の診断書または障害年金の年金証書の写しと顔写真を添えて申請書とともに市町村の窓口に提出することにより、市町村長によって交付される。

問題 146 2011年（平成23年）に改正された障害者基本法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 精神障害者保健福祉手帳が規定された。
- 2 基本理念に「障害を理由として、差別することその他の権利利益を侵害する行為をしてはならない」と差別禁止が盛り込まれた。
- 3 法の目的に「障害の有無によって分け隔てられることなく」「共生する社会を実現する」とインクルージョンの理念が盛り込まれた。
- 4 「精神障害者」の定義について、「統合失調症，精神作用物質による急性中毒又はその依存症，知的障害，精神病質その他の精神疾患を有する者」と規定された。
- 5 国際障害者年の理念である「完全参加と平等」を実現するために改正された。

問題 147 社会福祉協議会に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 社会福祉協議会は、高齢者福祉の推進を図ることのみを目的としている。
- 2 日常生活自立支援事業の実施主体は、都道府県と政令指定都市の社会福祉協議会である。
- 3 社会福祉協議会は、ボランティアの育成や福祉教育の推進にはかかわらない。
- 4 市町村社会福祉協議会および地区社会福祉協議会は、社会福祉従事者及び社会福祉事業の経営者の養成、指導など広域的な見地から活動をしている。
- 5 社会福祉協議会は、法的に規定されていない。

問題 148 精神保健福祉相談員に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 資格は不要である。
- 2 民間組織において活躍する。
- 3 「精神保健福祉法」に規定されている。
- 4 精神保健福祉に関する訪問指導は行わない。
- 5 厚生労働大臣が任命する。

(注) 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

問題 149 生活困窮者自立支援制度に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 生活困窮者一人ひとりの状況にあわせた支援プランを作成し、支援員が相談者に寄り添いながら、ほかの専門機関と連携して、解決に向けた支援を行う。
- 2 生活困窮者自立支援法では、自立相談支援事業、住居確保給付金の支給、就労準備支援事業、一時生活支援事業、家計相談支援事業、学習支援事業を必須事業としている。
- 3 「平成28年度生活困窮者自立支援制度の実施状況調査」の集計結果によると、自立相談支援事業の運営方法は、直営方式との併用を含め、ほぼすべての自治体が委託により実施している。
- 4 「平成28年度生活困窮者自立支援制度の実施状況調査」の集計結果によると、学習支援事業の支援対象の割合は「生活保護世帯の小学生」が圧倒的に多い。
- 5 この法律において「一時生活支援事業」とは、離職などにより住居を失った者、または失うおそれの高い者に、就職に向けた活動をするなどを条件に、一定期間、家賃相当額を支給するものである。

問題 150 事例を読んで、地域生活定着支援センターに関する記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Fさん(40歳, 男性)は過去に犯罪を繰り返し、現在も矯正施設へ入所中である。Fさんは数十年前に統合失調症の診断を受けたが、今までに福祉サービスを利用したことはない。Fさんには頼れる家族がおらず、住居もないため、退所後に再び罪を犯すことが危惧されていた。そのため、保護観察所はFさんの円滑な社会復帰に向けて、地域生活定着支援センターに支援協力を依頼した。

- 1 地域生活定着支援センターは、Fさんが矯正施設を退所した後に支援を開始した。
- 2 Fさんは精神障害者保健福祉手帳を取得しておらず、地域生活定着支援センターによる支援を受けるためには、手帳を申請する必要がある。
- 3 Fさんが入所中の矯正施設所在地以外の都道府県で生活することを希望した場合には、Fさんが希望する都道府県の地域生活定着支援センターが支援を行うこととされている。
- 4 地域生活定着支援センターは、Fさんに関する福祉サービス等の調整を行った場合、都道府県知事に文書で報告しなければならない。
- 5 Fさんが社会福祉施設等に入所した場合、地域生活定着支援センターによるFさんへの支援は終了となる。

問題 151 「医療観察法」に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 入院によらない処遇が決定されると、医療機関への通院は対象者の自己判断に任される。
- 2 精神保健観察の期間は、精神保健参与員が対象者の通院医療機関への通院の指導や生活環境の調整等を行う。
- 3 2013年（平成25年）の「精神保健福祉法」の改正で保護者制度が廃止されたことを受けて、「医療観察法」の保護者の規定は削除された。
- 4 初回審判から処遇終了までの審判は、地方裁判所によって決定される。
- 5 「医療観察法」における重大な他害行為とは、殺人、放火、強制性交等、の3つである。

(注) 1 「医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。

2 「精神保健福祉法」とは、「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」のことである。

問題 152 質的調査法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 構造化面接は、いくつか簡単な質問をした後で、特定のテーマについて調査対象者に自由に語ってもらう方法である。
- 2 非構造化面接は、ある程度質問項目を準備するが、調査対象者の自由な語りができるように、なるべくオープンエンディッド（制約のない）な質問を用いる方法である。
- 3 半構造化面接は、質問内容があらかじめ決まっていて、順序どおりに調査対象者に質問していく方法である。
- 4 参加観察法は、調査者が調査対象者となる人々やその活動の場面に関与して、見聞きした事象を記録にしていくことである。
- 5 フォーカス・グループ・インタビューは、調査対象者同士の相互作用は生じないので、個別インタビューで生成されるデータと性質は同じである。

(精神保健福祉に関する制度とサービス・事例問題)

次の事例を読んで、問題153から問題155までについて答えなさい。

〔事例〕

Gさん(22歳, 女性)は, 父親(48歳)と母親(46歳)の3人家族である。大学4年生になった春頃から精神的に不調となり, 精神科病院を受診したところ, 統合失調症と診断された。早期受診により入院には至らず, 通院治療継続となった。Gさんは主治医と相談し, 受診した翌月以降は大学を休学して回復に努め, ゆくゆくは復学し卒業することを目指した。

父親は機械メーカー製造工場に勤務していたが, 会社の経営事情により解雇され, 母親がパート業務に従事しているが, 家計全体を支えられる収入ではなかった。Gさんが通院を開始してからも, 父親の再就職が決まらないまま, 蓄えを取り崩しながら生活していた。住まいについては, 亡くなった祖父母の家に住んでいるため, 家賃支払いは不要だった。両親は最終的には生活保護の受給を覚悟していたが, できれば生活保護を利用せずに生活できる方法を知りたいと思っていた。父親は今後の再就職や当面の生活費の見通し等について, Gさんの通院先である精神科病院のH精神保健福祉士に相談した。

H精神保健福祉士は, 両親の意向を踏まえ, 世帯全体の経済的基盤を確立するための支援について取り組むこととし, 各種制度の活用について情報提供を行った。

(問題153)

父親の相談から1か月後, 今度はGさん自身から, 病状が回復した後の将来的な就職等について心配があるとのことで, H精神保健福祉士は所得保障に関する支援について相談を受けた。Gさんは, 発症以前にしていたアルバイトの収入とその蓄えで, 20歳から国民年金の保険料は欠かさず納付していた。(問題154)

その後, 父親は身につけた技術を活かせる就職先が決まり, 経済的問題が軽減される見通しは立ちつつあった。しかし, できるだけ早期の復学を希望しているGさんの学費の問題が心配だった。(問題155)

問題 153 次のうち、Gさん世帯の支援における制度活用として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 生活困窮者自立支援制度による自立相談支援事業の活用
- 2 生活保護による介護扶助の申請
- 3 労働者災害補償保険
- 4 生活困窮者自立支援制度による住宅確保給付金の支給
- 5 傷病手当金

問題 154 次のうち、Gさん自身がH精神保健福祉士に相談した時点で対象となる可能性のある所得保障に関する経済的支援として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 障害厚生年金
- 2 特別障害給付金制度
- 3 障害基礎年金
- 4 生活保護による生活扶助
- 5 医療保険制度の高額療養費制度

問題 155 次のうち、Gさんが卒業までの大学生活を送るに当たり学費等の経済的支援を得られる制度として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 精神障害者保健福祉手帳
- 2 自立支援医療（精神通院医療）
- 3 生活保護による教育扶助
- 4 生活福祉資金による教育支援資金の活用
- 5 特別障害者手当

精神障害者の生活支援システム

問題 156 精神障害の特性に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 疾病と障害が共存することはない。
- 2 対人交流を促進するような働きかけは悪影響を与える。
- 3 新たな環境に対する不安が生じやすく、環境への適応に困難を示すことがある。
- 4 精神障害者が意欲のない状態になるのは、環境のみが原因である。
- 5 余暇活動や仲間づくりへ向けた働きかけは、心身へのプラスの影響が期待できる。

問題 157 精神障害者の生活の実態に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 「平成27年度衛生行政報告例」(厚生労働省)によると、精神保健福祉センターにおける相談内容では、「ひきこもり」が最も多い。
- 2 「平成25年度障害者雇用実態調査」(厚生労働省)によると、雇用精神障害者数を産業別にみるとサービス業が最も多く、次いで製造業、卸売業および小売業の順である。
- 3 「平成27年度衛生行政報告例」(厚生労働省)によると、2015年度(平成27年度)末における精神障害者保健福祉手帳交付台帳登録者数の等級別では、3級が最も多い。
- 4 「平成25年度障害者雇用実態調査」(厚生労働省)によると、雇用精神障害者を疾病別にみると、医師の診断等による確認では「そううつ病」が最も多い。
- 5 「平成27年度衛生行政報告例」(厚生労働省)によると、一般・警察官等からの精神障害者申請通報届出数は、2010年(平成22年)以降、減少傾向にある。

問題 158 障害者の権利に関する条約に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 就労の場では精神疾患の症状に対して合理的配慮を行わなければならないと規定されている。
- 2 精神障害者の福祉サービスは、都市部と地方で格差があることは認められない。
- 3 精神科病院退院後は、治療が確実に継続されるよう、施設入所が推奨される。
- 4 精神障害者は、あらゆる教育の機会を保障される。
- 5 我が国では、障害者の権利に関する条約の実施の促進、保護、監視するための機関として厚生労働省に「障害者政策委員会」を置く。

問題 159 事例を読んで、居住支援における J 精神保健福祉士の支援内容について、適切なものを1つ選びなさい。

〔事例〕

Kさん（70歳，女性）は，気分障害の診断を受け，U精神科病院に数回の入退院を繰り返した後，生活保護を利用しながら現在はアパートで单身生活を送っている。U精神科病院への定期的な通院治療と，J精神保健福祉士による訪問看護サービスを利用している。Kさんは自身の身の回りのことはできているものの，最近では，水道光熱費の支払いを忘れてたり，薬を飲み忘れてたりすることが続いている。Kさん本人からは，金銭管理および今後の生活に関して「自信がない」や「不安である」という発言がみられるようになってきた。

- 1 Kさんの最近の生活状況から，アパートでの单身生活を継続することは難しいと判断し，グループホームへの入居を勧めた。
- 2 Kさんは生活保護費を受給中であることから，福祉事務所の担当ケースワーカーに近況を報告し，Kさんと面談を行うよう依頼した。
- 3 Kさんの精神的な不安を軽減させるため，U精神科病院への短期入院を勧めた。
- 4 Kさん自身が不安を感じていることを考慮し，成年後見制度の活用を勧めた。
- 5 Kさん自身の不安な気持ちを受けとめ，地域定着支援事業等のサービスに関する情報提供と相談対応を行った。

問題 160 行政機関に配置される精神保健福祉の専門職に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 保健所の退院後生活環境相談員は、精神科病院の社会的入院の解消を図る。
- 2 市町村では精神保健福祉相談員が、精神障害者やその家族の相談支援を行う。
- 3 精神保健福祉センターの職場適応援助者（ジョブコーチ）は、就労支援を行う。
- 4 市町村のサービス管理責任者は、精神障害者の支援計画の作成や評価を行う。
- 5 都道府県に精神障害者雇用トータルサポーターを配置し、就労の相談援助に対応する。

(精神障害者の生活支援システム・事例問題)

次の事例を読んで、問題161から問題163までについて答えなさい。

〔事例〕

Lさん(28歳, 男性)は, 小学生の時から落ち着いて授業を聞いていることができず, また友だちをつくるのが苦手であった。高校3年生になり大学進学を目指したが, これまでの孤立感や勉強に集中できないことが重なり, 極度の不安感に襲われ, また希死念慮が出現したため, 精神科病院を受診した。そこでLさんには自閉症スペクトラム障害があり, 二次的にうつ病に罹患していると診断された。

Lさんは大学進学をあきらめ, 高校卒業後は発達障害専門のデイケアに通所することとなった。あるとき, デイケアで実習中の精神保健福祉士を目指す学生と出会い, 改めて大学に進学したいと思うようになった。

Lさんは少しずつ受験勉強を始め, 発達障害のある学生として, 大学に必要な配慮を相談し進学することができた。大学進学後も, 対人関係や勉強上のストレスにより抑うつ状態となることも頻繁にあったが, 休学や留年をしながらも卒業を目指すことにした。大学卒業後は就職をしたいと考えていたため, 大学の就職相談室に相談した。そこで, 就職面も含めLさんのキャリアプランに沿った大学生活と就職活動の両立や就職後も継続的に支援が可能なV機関に取り次いでもらうこととなった。(問題161)

Lさんは, V機関の相談員から, 働くための準備性を高めるために大学卒業後はW機関も利用してみてもどうかと勧められた。(問題162)

Lさんは, W機関に定期的に通いながら人との関係性のもち方を練習し, 働くための職業準備性を高めていった。しばらくして, LさんはW機関のM精神保健福祉士に相談し, 実際に働く前に障害者雇用の実績がある近隣のY物販会社の倉庫で検品作業などの実習を行うこととなった。実習を終えて, LさんはM精神保健福祉士と振り返りを行い, 1日6時間, 週5日なら働くことができると伝えた。そこで, LさんとM精神保健福祉士は, Y物販会社の社長に, 障害者雇用率制度によって雇用してもらえないか相談することにした。(問題163)

問題 161 Lさんが利用したW機関として適切なものを1つ選びなさい。

- 1 発達障害情報・支援センター
- 2 就労継続支援A型事業所
- 3 地域若者サポートステーション
- 4 障害者就業・生活支援センター
- 5 障害者職業能力開発校

問題 162 W機関を利用する際にLさんに必要なこととして適切なものを1つ選びなさい。

- 1 精神障害者保健福祉手帳の申請
- 2 サービス等利用計画の作成
- 3 障害支援区分の認定
- 4 自立支援医療（精神通院医療）の受給
- 5 職業評価

問題 163 このとき、M精神保健福祉士が会社に伝えた助成金等について、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 特定求職者雇用開発助成金（障害者初回雇用コース）
- 2 特定求職者雇用開発助成金（発達障害者・難治性疾患患者雇用開発コース）
- 3 報奨金
- 4 障害者介助等助成金
- 5 トライアル雇用助成金（障害者トライアルコース）

